

# 環境問題と不動産——



今月のテーマ

低炭素社会に向けての様々な方策

## 地域の太陽エネルギーやバイオエネルギーを活用するなど、私たちの生活の見直しがCO<sub>2</sub>削減につながります

私たちは、快適かつ効率的な生活や仕事をするために多くのエネルギーを使っています。つまり家庭や事務所が多くCO<sub>2</sub>の排出源となっている訳です。CO<sub>2</sub>の排出を減らすには、このエネルギーを大幅に減らす必要があります。そのためには、まずは建物の冷暖房効率をあげることが大切。建築物の高断熱化によって、室内の温度差を抑え、放射熱などを利用した質の高い暖房を供給することや、冷気や暖気を逃さず、太陽エネルギーや自然風を建物内に効率的に取り込む設計上の工夫が必要です。こうして取り組みは超高齢化社会にふさわしい方策ともなりますので、それらを普及させるためには、導入する側の経済的負担を低減するための施策を実施する必要があります。

また、建物の環境性能評価制度やラベリング制度を導入することも有効です。個々の設備機器についても、徹底的に効率を改善することでCO<sub>2</sub>削減に貢献できます。そのためには、すべての設備機器を現状のトップランナー制度の対象範囲として、数年毎に目標の更新を実施し、優秀な技術開発をした主体に対する報奨金を導入することが考えられます。しかし、効率が大幅に改善された機器が開

入をしないと普及は進みません。そこで、CO<sub>2</sub>やその他の温室効果ガスの排出に関する正しい情報をいつでもどこでも入手できるよう「見える化」の制度やインフラの仕組み、それを適切かつ分かりやすく伝えるナビゲーションシステムの整備を行うことで、低炭素化に向けた消費行動を促すことができる訳です。

またそれは、財やサービスの生産時の温室効果ガス排出量を間接的に削減することにもつながります。野菜や果物などの食料品については、旬のものを選ぶことで、間接的に農産物に要するエネルギー消費量が削減できます。建築物も鉄やセメントではなく、林産材を積極的に使うことで生産時に多量のエネルギーを削減することができます。これらに加えて、地域の太陽エネルギーやバイオエネルギーを積極的に活用し、低炭素な電力を購入することで排出量の大幅削減が可能となります。



作物を自然の気象条件のもとで栽培する露地栽培は、資源の節約につながります

## 低炭素社会に向けた12の方策 (独) 国立環境研究所

### 1. 快適さを逃さない住まいとオフィス

構造を工夫することで光を取り込み暖房・冷房の熱を逃がない建築物の設計・普及

### 2. トップランナー機器をレンタルする暮らし

レンタルなどで高効率機器の初期費用負担を軽減し、モノ離れしたサービス提供の推進

### 3. 安心でおいしい旬度旬消費農業

露地で栽培された農産物など旬のものを食べる生活をサポートすることで農業経営が低炭素化

### 4. 森林と共生できる暮らし

建築物や家具・建具などへの木材積極的利用、吸収源確保、長期林業政策で林業ビジネス進展

### 5. 人と地球に責任をもつ産業・ビジネス

消費者の欲しい低炭素型製品・サービスの開発・販売で持続可能な企業経営を行う

### 6. 滑らかで無駄のないロジスティクス

SCM※1で無駄な生産や在庫を削減し、産業で作られたサービスを効率的に届ける

※1 SCM (Supply Chain Management): 材料の供給者、製造者、卸売、小売、顧客を結ぶ供給連鎖管理

### 7. 歩いて暮らせる街づくり

商業施設や仕事場に徒歩・自転車・公共交通機関で行きやすい街づくり

### 8. カーボンミニマム系統電力

再生可能エネ、原子力、CCS※2併設火力発電所からの低炭素な電気を、電力系統を介して供給

※2 CCS:二酸化炭素隔離貯留 Carbon dioxide Capture and Storage

### 9. 太陽と風の地産地消

太陽エネルギー、風力、地熱、バイオマスなどの地域エネルギーを最大限に活用

### 10. 次世代エネルギー供給

水素・バイオ燃料に関する研究開発の推進と供給体制の確立

### 11. 「見える化」で賢い選択

CO<sub>2</sub>排出量などを「見える化」して、消費者の経済合理的な低炭素商品選択をサポートする

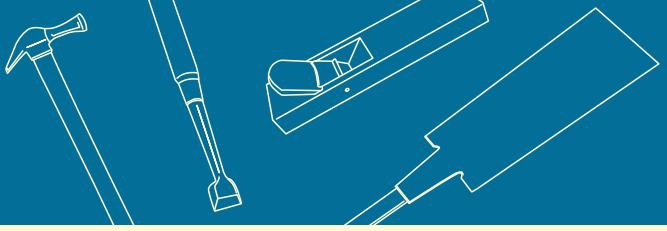
### 12. 低炭素社会の担い手づくり

低炭素社会を設計する・実現させる・支える人づくり

10月、衣替えのシーズンです。「衣替え」は中国の習慣に習い、平安時代から始まり「更衣(こうい)」と呼んだそうです。しかし、これは天皇の着替えの役目を持つ女官と同じ呼び方で、一般的に「衣替え」と言うようになったそうです。

# 知識の泉

今号のテーマ  
“大工道具1(三種の神器)”



## 仏教伝来とともに発展

日本では仏教の伝来とともに著しく建築技術が発展。飛鳥・奈良・平安には、活発な建築生産活動が行われ、その結果、濫伐による木材資源の減少がもたらされた。この頃を境に柱などの建築部材は徐々に細くなっていたが、12世紀から13世紀にかけて、多くの貴によって柱などの軸部を固める建築技法が生まれ、柱を小さくできる利点から、住宅建築にも取り入れられるようになった。また、いかに木材の特性を活かし、構造的に問題のない建物を作るかの研究も盛んに進められ、道具も増え加工技術も進化した。14世紀～15世紀にかけては大材が不足していたため、継手や仕口等の木材の接合技術が格段に上がり、また、鋳造技術も充実し道具の完成度も高くなる。

## 細分化された日本の大工道具

これほど細分化した職人道具はないといわれるほど、日本の大工道具はバラエティに富んでいる。道具の標準編成も驚く数だ。

### 【大工道具の標準編成】

労働科学研究所(昭和18年～24年にかけての調査)

<第一形式・必要にして充分な整備形式>

ノコギリ12 カンナ40 ノミ49 他 計179種

<第二形式・最低限の整備形式>

ノコギリ9 カンナ9 ノミ14 他 計73種

### 大工の三種の神器

大工の三種の神器と言われているものが、チョウナ(手斧)、サシガネ(曲尺)、スミツボ(墨壺)である。今回はこの3つの道具を紹介する。

#### <サシガネ／指金・矩尺>

サシガネはL形のものさし。日本建築は、規矩術と言われる計算技術でサシガネを使って建物のあらゆる部位を計算していた。規矩術とは、物事の基準を正す、きちんとするという意味の「規矩準繩(きくじゅんじょう)を正す」という言葉に由来している。規矩準繩の「規=コンパス」「矩=物差し」「準=水盛り」「繩=墨縄」を意味する。サシガネの裏側の目盛りは角目といい、表の目盛りを√2倍したものが刻まれ

ている。また、

丸目という目盛

りでは丸太の

円周を計ること

ができる。



#### <スミツボ／墨壺>

大工の設計者、

デザイナーとし

ての本領發揮の道具。材木



に直線をひくもの。スミツボと共に使われるスミサシは、竹をへら状に削って先を割り直線を書くと同時に、その尻をつぶして墨を含ませ文字や符号を書く。

#### <チョウナ／手斧>

斧の一種であり、

刃先は最初は

丸型、16世紀

の末、安土・桃

山時代には直線片刃となった。



## コ・ラ・ム 木曽五木

木曽は昔から素晴らしい木材の産出地として知られています。しかし、江戸初頭には城下町の建設などで濫伐され荒廃してしまいました。そこでこの山を管理していた尾張藩は木曽の五種類の木を保護するため「檜(ヒノキ)一本首一つ」と言う厳しい森林保護政策をとりました。下記で木曽五木を簡単にご紹介します。

ヒノキ: 気品ある色合いと光沢、耐久性の高さなど、最高の建築素材です。

サワラ: 長押、廻縁(まわりぶち)等の造作材、また天井材としても優れた木材。

ネズコ: 木目が緻密で美しいため、板物は天井材や壁板に最適です。

アスナロ: 耐湿性、耐圧性に富み、狂いが少なく、土台、梁、桁等に使われます。

コウヤマキ: 濡気・水気に非常に強く、特に風呂場廻り等に良く使われています。

## お勧めの一冊 落日燃ゆ



著者:城山 三郎

出版社:新潮文庫 ¥580(税込)

先月、国立公文書館が所蔵する東京裁判の全記録が閲覧可能になりました。本書はこの東京裁判で唯一文官であり絞首刑となった、広田弘毅元首相(戦争時外務大臣)を描いた城山三郎の力作です。広田弘毅は平和解決のため奔走したにもかかわらず、裁判では自分に責任があるということで、「黙して語らず」を最後まで通した人物でもあります。その生き方はまさに日本人の心に響くものがあります。戦争の歴史の断片と言うだけではなく、日本人としての生き方、そして死に方を考えさせられる一冊です。

## COOLBIZ チーム・マイナス 6% <http://www.team-6.jp/>

株式会社 円昭(enshow corporation)では地球温暖化防止のためCO<sub>2</sub>排出量削減に取り組む「チーム・マイナス6%」に参加しています。京都議定書では、地球温暖化を防止するために、2012年までに1990年比で6%の温室効果ガス削減を約束しています。しかし2005年度における日本の温室効果ガスの排出量は、7.8%上回っており、温暖化対策をより強化する必要があります。微力ですが、将来の地球のためにできることから行動することを宣言します。

## 株式会社 円昭

〒466-0031

名古屋市昭和区紅梅町3-4-2

TEL : 052-841-2701

FAX : 052-841-4301

mail@enshow.com

<http://www.enshow.com>